

関東学院 学報

KANTO GAKUIN NEWS No. 33 2007.3

人になれ 華々せよ
1884-2009
125th
ANNIVERSARY



大学ラグビー部、早大破り王座奪回 「エンジンジョイ・ラグビー」で雑草に花が咲く

10年連続決勝進出 6度目の大学日本一に

2007年1月13日、国立競技場、快晴。対戦相手は早稲田大学。6年連続の同カードである。2年連続敗戦の雪辱を晴らすステップが整った。3万1954人の大観衆。しかし、その大半が早大の応援で、専門家の予想でも早稲田有利、三連覇との呼び声が高かった。その逆風の中での関東学院の快勝に春口廣監督の目指すエンジンジョイ・ラグビーの真髄を観た。

大学選手権10年連続決勝進出、記念すべきその節目に見事優勝した本大学ラグビー部の大活躍を過去のデータも加え、読者と振り返り喜びを分かち合いたい。



関東学院大		早大の得点経過			G
時間	関 - 早	得点者	プレー内容		
9分	7-0	吉田	敵ラインアウト奪い回してラックからT		
21分	14-0	朝見	敵ラインアウトのミスを取り140メートル独走T		
29分	21-0	山下	素早く右に展開して数的優位に立つてT		
35分	21-5	首藤	攻撃リズム速めて矢富パス受け左スミT	X	
37分	21-12	菅野	敵キックを五郎丸拾い右パス50メートル独走T		
前半	21-12	早大ラインアウトをことごとく関東が奪って加点			
5分	28-12	朝見	左ラックから右展開で抜けて40メートル独走T		
24分	28-19	菅野	敵キックを拾って展開し2人かわしてT		
40分	33-19	朝見	左ラックで奪った吉田から受け50メートル独走T	X	
45分	33-26	今村	中央突破でT。五郎丸G後にノーサイド		
後半	12-14	風上の早大は要所で攻めきれず関東が逆襲し加点			
合計	33-26	関東はFW戦で優位に立ち、全員ラグビーで勝利			

まず、今回の決勝戦を振り返ってみよう。この得点経過表は、「日刊スポーツ」からの転載だが、今回の優勝記事は、新聞各紙、スポーツ専門雑誌に詳しく掲載されているので、ここでは、主に春口監督と選手たちのナマの声をできるだけ多く取り上げたい。

春口廣監督の話

「ここまで本場に長かった。うれしいの一言。選手たちはいつも通り自信をもってプレーし

本望です。先輩たちの頑張りで、ここまで来られた。来年もまた頂点に立ちたい」

雑草に花が咲いた

竹山君（FL）の言葉

「相手に能力のある選手がそろっているのなら、自分たちは努力するしかなかった」「いままでの早大戦ではターンオーバーされるばかりだったが、その反対だった。精度が高く、速さのあるプレーに一番驚いたのは僕ら自身だった」

高田副主将（バックスリーターCTB）の言葉

「基本のまた基本を繰り返した。まるでラグビーを習いたての子どもたちのようだった」「土台をしっかりとついていたことで、選手もチームも簡単に崩れなくなった。地に深く根をはった結果、僕は優勝という花を咲かせられたんです」



155人の部員の気持ちを一ひとつにした寄せ書き

「神奈川県」松島佳子記者の文章をお借りしよう。

若山宗平主務の言葉

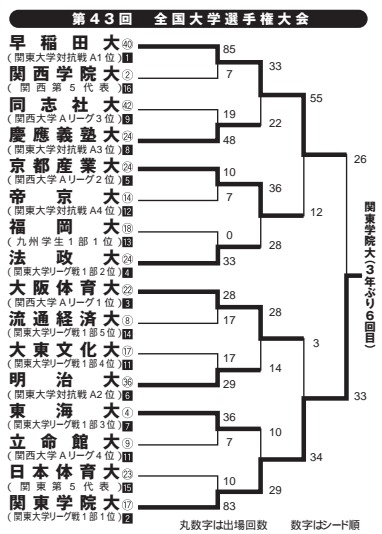
「もつとできるはずなのに何でやらないんだ。中途半端な気持ちで臨むなよ。その手には部員の思いの丈がつづられた寄せ書きが握りしめられていた。「お前ら本当に優勝する気あんのかよ」

リーグ最終戦で法大に敗れ、気を引き締めて再出発を誓ったはずの全国大学選手権。だが、煮え切らない試合は続いた。

「155人の部員全員の気持ちが一つにならないければ、勝てない。裏方をまとめるだけではなく、監督と選手のパイプ役でもあった若山主務は頂点に立つことの厳しさを誰よりも知る春口監督の嘆きを耳にして、寮の選手たちの部屋を回った。手には縦1横2の布があった。

100人近くの部員がベンを走らせた。「死ぬ気でサポートする」「お前らの後ろには150人がついてる。行ってこい」。そして、こうあった。「おれはお前らのためだったら何でもする。でも勘違いするな。おれは日本一にないんだ」

寄せ書きを手に声を荒らげる若山主



てくれた。ラインアウトを徹底的に練習してきたが、ここまでうまくいくとは思わなかった。この子たちに会えて本当によかった。チーム全員でつかんだ勝利」

「10年連続で決勝に進み、節目で勝たせてもらった。この選手たちと一緒にラグビーができて幸せ。早大の出来が悪かったのではない。うちの出来が良かったから、優勝できたのだと思う。FWがまず1メートル前へ。そうすればバックスは、その勢いで走れる。学生がその言葉を信じて一生懸命やってくれた」

「早稲田の出来は関係ない。自分たちの出来が最高だった。ラグビーをやってきて本当に幸せ」

敬意を表して早大の中竹竜二監督の話も引用する。

「ラインアウトで負けた。前からプレッシャーがかかっている、思うようにボールが動かせなかった。接点の強さも想像以上でリズムに乗れなかった。決勝はどちらかが自分のスタイルでできるかにかかっていたが、自分たちにはそれができなかった」

ONE FOR ALL, ALL FOR ONE

「空中戦制圧」「二本柱」「ラインアウトで勝った」と西君と北川君という190センチを超える長身の選手がクロウズアップされるが、その二人をタイミング良くリフティングする

務の姿に主将のS吉田は「何のために自分たちはここでラグビーをしているのか。大切なことを思い出させられた」。関東学院大に進んだのは日本一になりたいからではなかったか。であるならば、いかなる試合もその目標にふさわしい内容が伴わなければならないはずだ。まとめを欠きながら、勝ち上がることで問題を目を向けてこなかった自分たちを恥じた。

2日の大体大との準決勝。そこには張りつめた空気の中、全力を出し切る選手の姿があった。

そして迎えた13日の決勝「早大の出来が悪かったわけではない。うちの仕上がりが万全だった。だからいいゲームができると思っていた」。勝因を問われ、指揮官はそう強調した。関東学院大のロッカー室には、あの寄せ書きが張り出されていた。



する。その精神の大切さを春口監督はあらためて思い知らされた。1年前の決勝。早大に541と大敗し、泣き崩れる主将で大黒柱のFB有賀剛（現サントリ）の肩を抱きながら、春口監督は自責の念を感じていたという。「1人の力に頼るチームづくりをしてしまった。15人の力がなくては勝てない」と痛感した

早大との全国大学選手権決勝。勝負の行方を大きく左右するプレーが起きたのは、2812と関東学院大のリードで迎えた後半16分。パスミスから受けたカウンターだった。ボールが早大の快足トライゲッター首藤に渡る。左タッチライン沿いをそのまま駆け上がりればトライだ。その刹那、振り切られたかに映ったH0田中が、体勢を崩しながら懸命に右手を伸ばす。指先が、足先をかすめた。

首藤がもんどりをうって早大の反撃のチャンスがついてきたとき、勝負の帰趨は決した。

春口廣監督は「執念だった」と、紙一重のプレーに精神の高まりを見た。田中は「練習でもやったことのないプレー」と見えざる力を感じていた。

味方のミス身を置いてカバー

関東学院大学 決勝出場スターティングメンバー

背番号	氏名(学部/学年/高校)	ポジション	センチ	キロ
1	西垣友博 (経済/3年/東山)	PR	177	108
2	田中貴士 (経済/4年/大工大)	HO	172	103
3	原田豪 (経済/2年/佐賀工)	PR	181	115
4	西直紀 (経済/3年/佐賀工)	LO	196	93
5	北川勇次 (経済/2年/大阪桐蔭)	LO	194	105
6	大野潤滋朗(人環/4年/熊本西)	FL	176	87
7	竹山浩史 (経済/4年/大島)	FL	175	85
8	土佐誠 (経済/2年/尾道)	No.8	186	95
9	吉田正明 (経済/4年/大工大)	SH	164	66
10	藤井亮太 (経済/4年/佐賀工)	SO	166	80
11	中園真司 (経済/3年/佐賀工)	WTB	171	73
12	高山国哲 (人環/4年/啓光学園)	CTB	175	80
13	櫻谷勉 (経済/4年/伏見工)	CTB	180	82
14	朝見力弥 (経済/3年/正智深谷)	WTB	170	75
15	山下祐史 (経済/4年/大工大)	FB	175	80

24歳で監督に就任した1974年当時、関東大学リーグ3部の所属で部員はわずか8人、グラウンドにゴールポストはなかった、常勝の冠を頂くまでになった現在、全国からは有望な選手が集まり、部員数は150人を超えた。だが名声の陰に忘れかけていたものがあった。

関東大学リーグ戦得点王に輝いた3年生のWTB中園が言う。「FWは後ろにいる選手のことを考えて少しでも前でプレッシャーを

選手がいなければ、効力を発揮できない。それだけではない。「全員之力」と北川君本人が言う。レギュラー以外のメンバーは対抗戦グループの試合に通い、早大を研究。キックオフ直後とラインアウトに弱点を見いだした。この日、前後半ともに関東学院大が最初トライを奪い、早大のラインアウト12回のうち、成功はわずか3回。得点差以上に完勝だった。155人の部員でレギュラーは、15人、試合当日の控え選手を含めても22人である。縁の下力持ちがいなければ10年連続で決勝に進み、6度の優勝はありえない。

吉田主将の言葉

「同じSHでも、(早稲田の)矢富は1人でぐいぐいボールを持って行くタイプ。でも自分はFWとBKをつなぐ軸の役割。みんなが最高の力を発揮し、FWが守備で重任をかけたからこそ、矢富を止められた」。

田中副主将（FWリリー）の言葉

「うれし涙を流したのは初めて。初めてこんなにチームがまとまった。最後にやっと一つになった。こんなにうれしことはない」

朝見君（WTB）の言葉

「三つ(のトライ)とも周囲のおかげ。自分の前に進むことしか頭にありませんので。すごい舞台で、すごい相手に、全員の力で勝てた」

CONTENTS

第43回全国大学ラグビーフットボール選手権大会優勝1

学院長就任挨拶 森島牧人先生5

関東学院史展示会開催6

【関東学院創立125周年記念事業報告】
横浜のキリスト教主義学校教育シンポジウム7

国際シンポジウム
「大航海時代の光と影」8

『シーボルトコレクション植物画集(仮称)』出版プロジェクト・中学校高等学校新棟の起工式9

関東学院の建学の精神と伝統文化展・日韓国際シンポジウム10

関東学院の源流を探る—2511
レイモンド・P・ジュニズ博士
(アメリカ・バプテスタ宣教師・本学教授・大学宗教主任)

建学の精神を生きる「OBに聞く」15
(株)ニコン社長／荻谷道郎さん

法科大学院トピックス17
新司法試験合格者インタビュー／井上佳子さん

ユニークな授業18
渡辺えり子先生・吉原高志先生
「アジアの遺伝子を吸収して」

詩のコンテストとエッセイコンテストの開催・ビジネスプラン・コンペティション2006が開催19

公開講座Topics20
詩人・小池昌代さん

学院役員・教職員人事21

関東学院創立122周年記念式挙行・キリスト教教育活動他報告22

関東学院各校NEWS・編集後記24

主な学校行事予定(4月～9月)29

【カバー・ストーリー】

関東学院中学校高等学校 O.C.C.ハンドベルクワイアについて

O.C.C.とは「Olive」オリーブ、「Choral」賛美歌・合唱、「Coterie」仲間、の頭文字で、関東学院の合唱する仲間たちという意味があります。30年ほど前に導入したハンドベル演奏活動が今では中心となっているが、クリスマスと入学式における合唱活動も行っている。ハンドベルは教会から生まれた楽器で、天使のハーモニーとも呼ばれる。クリスマスや創立記念礼拝などの学内演奏活動、地域や施設などからの依頼演奏の他、毎年開催される全国大会、関東フェスティバル、隔年で開催される世界大会にも参加している。2006年夏、オーストラリア世界大会に参加。



KGU Retakes College Crown

The Rugby Club team of Kanto Gakuin University beat Waseda University 33-26 in the final of the 43rd University Championship at the National Stadium on January 13, 2007.

KGU Coach Hiroshi Haruguchi said, “We have been to the final for 10 straight years but this was our best performance. The line-outs went completely as planned. The forwards caught the ball and then went forward a meter or so, so our backs were always on the front foot.”

Kanto's recent success has been built on a 10-man approach. But on this day, its

文責・写真 瀬沼達也
執筆というより引用・構成と表現した方が相応しい記事となりました。記事の抜粋引用、データ使用させていただいた日本ラグビーフットボール協会と新聞各社、特に、神奈川新聞社、日刊スポーツ、(株)ベースボール・マガジン社、NPO法人横濱ラグビーアカデミー各社・団体にこの場を借りて謝意を申し上げます。



関東学院創立125周年記念ロゴ・デザイン
2009年に関東学院は、1884年、横浜山手に創立の横浜バプテスタ神学校から数えて125周年を迎えます。2009年は横浜開港150周年の年でもあり、同年を一つの目標として学院事業を展開して行きます。これを記念して「創立125周年記念ロゴ」を制作しました。

大野潤滋朗(F/L/S/H) 1〜3年まで、なんのブレッシヤもなくて来たが、4年になってからは色々な面でブレッシヤイがかかってきた。でも、家族が応援してくれていたことが何よりの助けになったと思っ。優勝したこともあるが、今思つと4年のみんなと一緒に来たことが一番嬉しかった。

藤井亮太(S/O) 4年で最後早稲田に勝つて優勝できた事、もう最高です！ ホント部員全員の勝利だと思います。みんなとKGUで、一緒にラグビーできてホントによかったです！ 幸せです！ そしてフアンのみなさん、関係者のみなさんにホントに感謝します！ ありがとございました。KGU最高！ みんな大好きです！

山下祐史(F/B) 4年目に試合に出れて、国立でトライもできて優勝もして最高の形で終わることができました。怪我で試合に出られない人の代表としてグラウンド

に立つたし、4年間一緒に生活してプレーしてきた仲間のためにも恥ずかしいプレーはできないなと思しました。この優勝は本当に部員全員で勝ち取った優勝だと思っし、色んな人の想いがたくさん詰まった優勝だと思います。最後になりますが、春口先生はじめ関係者の皆様には本当に感謝しています。何より関東学院に進まさせてくれた親には本当に感謝しているし、怪我ばかりして心配かけたけど親孝行できたかと思っいます。本当に関東学院に来てよかったなあと思っいます。

竹山浩史(F/L/S/H/W/T/B) 奄美大島からきて4年間一生の仲間と思っ出ができました。本当に4年間応援してくださいありがとうございます！ ぜひみなさん奄美に遊び

櫻谷勉(CTB) 田中貴士(H/O/副将) 一番つらかつたのが四年目でした。生まれて初めてハイキャプテンを任せられ、俺に出来るのかわからないと不安で仕方なかつたです。俺が一番助けられた奴は石田だつた。俺に代わつてまでとめてくれたり、ライアントを全部研究してくれて最後の最後まで早稲田のラインアウトを見てくれました。潤

高山国哲(CTB/副将) 4年間振り返つてこの1月13日が一番嬉しい日でした！ 怪我で悩まされた大学生活でしたが優勝したことですべてが報われました！ 試合に出ら

れなかつた4年生が泣きながら、ありがとっ！と言つてくれたことほどの喜びはありません！ “仲間のために戦う”っていう言つことなんだと身にしみて感じました！ 最高の仲間に出会えました。自分を支えてくれた家族や部員、フアンの方々に感謝の気持ちでいっぱいです！ 後輩たちにも自分たちと同じ優勝を勝ち取ってもらいたいです！

吉田正明(S/H/主将) 関東学院に入つてよかったと思っいます。特に監督、コーチがとてほしい指導をしていただいたことでよかったと思っしています。あついな仲間に出会えてよかつたです！ 本当に関東学院にきてよかつたです！

田中貴士(H/O/副将) 一番つらかつたのが四年目でした。生まれて初めてハイキャプテンを任せられ、俺に出来るのかわからないと不安で仕方なかつたです。俺が一番助けられた奴は石田だつた。俺に代わつてまでとめてくれたり、ライアントを全部研究してくれて最後の最後まで早稲田のラインアウトを見てくれました。潤

最後に国立に立たせてくれてありがとっ！！最高のFGU!! 一生の宝物になりました。ジャンボと豪 最後までついて来てくれてありがとっ

れなかつた4年生が泣きながら、ありがとっ！と言つてくれたことほどの喜びはありません！ “仲間のために戦う”っていう言つことなんだと身にしみて感じました！ 最高の仲間に出会えました。自分を支えてくれた家族や部員、フアンの方々に感謝の気持ちでいっぱいです！ 後輩たちにも自分たちと同じ優勝を勝ち取ってもらいたいです！

氏名	選出日本代表種類
竹山浩史	2007年度7人制日本代表
中園真司	2007年度7人制日本代表
土佐 誠	2006年度U-23日本代表
重見彰洋	2006年度U-23日本代表
村下雅章	2006年度U-19世界選手権日本代表

2006年度の成績(団体)	
関東大学リーグ戦1部優勝	
関東大学ジュニア選手権大会優勝	

このような謙虚な精神の監督を持つラグビ一部は仕合せだ。10年連続で決勝進出、6度も大学日本一のチームに学生たちを育てた春口監督の言葉は、重い。驕ることなく地に足のついた歩みをすれば、その結果として必ず優勝回数も増えてゆくことになる。

年	回	優勝校	スコア	準優勝校
1998	34	関東学院大	30-17	明治大
1999	35	関東学院大	47-28	明治大
2000	36	慶応大	27-7	関東学院大
2001	37	関東学院大	42-15	法政大
2002	38	関東学院大	21-16	早稲田大
2003	39	早稲田大	27-22	関東学院大
2004	40	関東学院大	33-7	早稲田大
2005	41	早稲田大	31-19	関東学院大
2006	42	早稲田大	41-5	関東学院大
2007	43	関東学院大	33-26	早稲田大

2007年度ラグビー日本代表スコッド選出関東学院大学卒業生・学生一覧

2007年2月5日に2007年度のラグビー日本代表スコッドが発表されました。FW(フォワード)27名、BK(バックス)26名、計53名ですが、そのうち9名が関東学院大学の卒業生と学生でした。箕内拓郎さんは、再度キャプテンに選ばれました。本年は、4年に1度開催される第6回ラグビーW杯が、フランスで行われます。この皆さんが同大会に出場され、大活躍されますよう声援しています。

Position	氏名	所属	年齢(学年)	出身校	身長cm	体重kg	生年月日	キャップ
HO	山本 貢	三洋電機ワイルドナイツ	25	関東学院大学	174	100	1981.5.12	5
PR3	山村 亮	ヤマハ発動機ジュビロ	25	関東学院大学	185	114	1981.8.9	29
LO4	北川勇次	関東学院大学	20(2年)	大阪桐蔭高校	194	105	1986.8.11	初
No8	箕内拓郎	NECグリーンロケッツ	30	関東学院大学	188	107	1975.12.11	31
CTB12	高山国哲	関東学院大学	22(4年)	啓光学園高校	175	80	1984.8.28	初
CTB13	霜村誠一	三洋電機ワイルドナイツ	25	関東学院大学	177	89	1981.9.20	2
WTB14	北川智規	三洋電機ワイルドナイツ	23	関東学院大学	175	80	1983.7.25	1
FB	立川剛士	東芝ブレイブブルーパス	30	関東学院大学	181	90	1976.11.25	11
FB	有賀 剛	サントリーサンゴリアス	23	関東学院大学	175	85	1983.11.3	2

け、ハーフはBKにつなぐためにボールを回し、BKはボールをつなぐためにくれたみんなのために走った。当たり前と言えはその通りかもしれない。でも、それがこの数年はできていなかった」
春先の走り込みでは、レギュラーも控えも関係なく汗を流した。グラウンドの雑草刈りも上、下級生と一緒にやって行つた。30余年、ラグビー部創成期の原風景に重なつた。
13日、歓喜のお立ち台で春口監督は「スターはいらない」と言つた。思えば殊勲の田中も、2年前の早大との決勝では、スローワーとして敗戦につながるミスを犯していた。2年続けて決勝で早大に喫した苦杯もまた、関東学院大の歴史の血肉となつてきたのだ。
10年連続で決勝に進み、うち優勝は6度。この10年では、早大の優勝回数の倍となった。

結びの言葉はやはり春口監督に絞っていた。以上、神奈川新聞社の松島佳子記者の文章からの抜粋引用)
優勝祝賀会の挨拶で祝勝会に出席したサポーターから「三連覇を目指して」の声援に、春口監督が応えた言葉が忘れられない。「三連覇なんてことを目標にする必要はない。毎年毎年一試合一試合に勝つことが大事」これは「スターはいらない。雑草に花が咲いた」と同じ源泉からの言葉である。
前回W杯日本代表キャプテンで、2007年日本代表スコッドでもキャプテンに選ばれた箕内拓郎さん(現NEC)が、KGUYキャプテンで初優勝したときを思い出した春口監督の言葉、「24年間かけチームが強く



人にたれ
奉仕せよ



関東学院大学

〒E045-781-2001□-

●金沢八景キャンパス

〒E045-781-2001

経済学部（昼夜開講制）

工学部（昼夜開講制）

人間環境学部

大学院（経済学研究科・工学研究科）

専門職大学院〔法科大学院〕（法務研究科）

●金沢文庫キャンパス

〒E045-786-7179

文学部

大学院（文学研究科）

●小田原キャンパス

〒E0465-34-2211

法学部

大学院（法学研究科）

関東学院中学校高等学校

〒E045-231-1001

関東学院小学校

〒E045-241-2634

関東学院六浦中学校高等学校

〒E045-781-2525

関東学院六浦小学校

〒E045-701-8285

関東学院六浦幼稚園

〒E045-781-0170

関東学院野庭幼稚園

〒E045-845-0876

学校法人

関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

法人事務局 〒E045-786-7028（代）

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

環境に配慮して



この印刷物は大豆インクを使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています